

富山大学和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館 ニュースレター



ひらめき☆ときめきサイエンスを開催

富山大学和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館 館長 小松かつ子

2018年2月
★第19号★

和漢薬ってこんなに身近にあったんだ! ~和漢薬体験してみよう~

平成29年8月5日(土)に、日本学術振興会からの委託による研究成果の社会還元・普及事業(ひらめき☆ときめきサイエンス)として、中高生を対象とした体験プログラム「和漢薬ってこんなに身近にあったんだ!~和漢薬体験してみよう~」を実施しました。今年で5回目となる同プログラムには、中高生21名が参加しました。生薬を実際に手に取り、形、色、味、香りを確かめるという、民族薬物資料館ならではの実習を企画し、また、それぞれの生薬もとの植物・動物・鉱物がどのようなものであるかや、どんな場合に応用するかなどについても学習してもらいました。薬といっても、特別なものではなく、近くに生えている植物の根だったり、料理に使われるスパイスだったり、身近にあることを発見してもらえたと思います。



▲ 展示室見学



▲ 葛根湯と桂枝湯の選別・鑑定



▲ 薬草ブレンドティー作りに挑戦

以下、受講生の感想です。
・とても楽しかった。漢方薬になる草が近くの道端に生えていると聞いてとても驚いた!!また参加してみたい。



- ・和漢薬にとっても興味がわき、漢方は日本にしかないことや桂枝湯の成分や配合生薬がわかり面白かった。
- ・漢方薬についてとても奥深く知ることができました。漢方薬は確かに身近にありました。漢方薬はすべて苦かった。
- ・身近な薬草など植物が薬になるのがよくわかりました。山菜など食べる植物が薬になる可能性などあるのかな。
- ・和漢薬にはたくさんの種類があってすごいと思いました。また、鉱物も薬の材料になることを知ってびっくりしました。
- ・薬物資料がたくさんあってどれも新鮮だった。昼食やブレンドティーなどおいしく漢方を摂れることがわかってとても良い体験だった。
- ・和漢薬の効き目や、昔ながらの方法などを知っておもしろかったです。
- ・偶然インターネットで見つけて、参加することができた。ちょうど将来のことも考える時期だったので、良い経験になった。また、ぜひこのような機会があれば参加したい。

館長ひとこと

個性的な中高生が多く、教え方に工夫が必要でした。漢方関連のクラブに所属する大学生に手伝ってもらい、参加者が違和感なく実習に入り込める体制づくりをしたことが効果的でした。参加者は教えられることより、自身のアイデアを盛り込める「薬草ブレンドティー作り」に興味を示しました。今後、このような実習を増やしたい。

目次

- 「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催
- 日本薬史学会2017年会に参加
- 第32回民族薬物資料館一般公開

日本薬史学会2017年会に参加

10月28日(土)に日本薬史学会 2017 年会が埼玉県の日本文学研究資料館(歴史的典籍 NW 事業)との共同研究として、江戸時代の救急医療の処置法を記した医書『広恵済急方(こうけいさいきゅうほう)』のデータベース化を進めています。本学会ではこの書の内容を紹介しましたので、以下に概略を記載します。

『広恵済急方』に見る江戸時代の民間救急療法

江戸幕府十代将軍徳川家治は庶民の疾病治療を按じて、「急病に罹った時医師を請う時間もなく、また遠方で医師がない土地もある。ましてや病気の治療方法も知らずに命を落とすことも多いという。そのような時に救急の方法を記した書物があれば、広く世に報いることができる。」との思いから、多紀元恵に命じて『済急方』が編纂され、1789 年(寛政元年)に『官準 広恵済急方』として出版される。本書は、医師の経験や民間の伝承を根拠とし、救急医療に際しての民間療法を記載した書物であり、当時の庶民が医師にかかる前に使用していた身近な薬物(生薬、新鮮な植物、食品などを含む)を知ることができることから、データベース化に着手した。18 世紀末における生薬の流通状況、江戸近郊の有用植物の自生・栽植状況、中国の本草書・医方書の影響、新たな薬草・食品の使用法の発掘などを目標にした。

本書では病気を 10 区分(卒倒の類、卒暴諸証、外傷の類、横死の類、諸物入九竅、中毒の類、婦人産前急証、臨産急証、産後急証、小児急証)し、さらに 85 項目に分け、各々の疾患の



概略を述べた上で、薬物療法と、鍼灸を含めた理法が記載される。薬物療法では約 300 品目が収載され、その内訳は植物性のものが約 210 品目、動物性が約 70 品目、鉱物性が約 20 品目であった。それらの内「薬店にあり」と記載されているものは122品目があった。

出現頻度の高い生薬等は、生姜(絞り汁が多い)、人参(処方を含む)、葱(葱白)、胡麻(油が多い)、人尿(童便が多い)、甘草、半夏、萊菔、辰砂、麝香、附子(処方を含む)、杏仁、黒豆、皂莢、大棗、熊胆、胡椒、香附子、雄黄、白礬であった。人参は卒暴諸証(急な疾患)に、甘草は中毒に、半夏(吐き気・嘔吐など)と附子(補陽、体を温める)は卒倒の類に内服し、また麝香は少量を他薬と混ぜて歯茎のただれや歯抜けに外用し、また恐怖死や難産にも用いていた。人尿はマムシや犬による咬傷に外用する他、金瘡や火傷に内服し、また中風や霍乱には生姜の汁と混ぜて飲むことや、脚気衝心には檳榔子末を童便にて用いること、吐血には香附子末、虚熱吐血には人参、黄芩各々を水で煎じたもの、中暑吐血には白芨末をそれぞれ童便で送下すると良いと記載されている。さらに産後急証の血逆昏暈には、「麒麟血、没薬、二味一匁ずつ末となし、童便と酒と半分まぜにして温め右の末薬を用ゆべし」などの興味深い記載も見られる。

処方としては、独参湯、参附湯、芪附湯、姜附湯、参姜湯の記載が見られるが、その他にも藿香正気散や二陳湯などの漢方薬を想起させる生薬の配合応用が見られた。

江戸近郊に自生または栽植されている有用植物として 80 種類が収載されており、トウゴマ、アリタソウ、ザクロ、ヤマゴボウなどの外来植物が含まれている他、トウゴマの果実やシキミの果実のように、毒性のあるものも含まれていた。



(灸法の図)

(益母の図)

ご来館の記録



Nov 30th, Khon Kaen University, Thailand

国際協力機構（JICA）による13ヶ国の薬事行政官及び薬剤師の研修に協力（7/5）

「適正な医薬品の供給・品質管理・使用に向けた薬事行政及び薬剤師の役割」に関する研修の一環として、20名が和漢医薬学総合研究所を訪問されました。

途上国の重要テーマである、偽造医薬品対策を含む医薬品の適正な供給管理のための1)薬事関連制度、2)サプライチェーンのあり方、3)薬剤師の役割に焦点を当てた視察を行う目的で来所され、松本所長が研究所の取り組みなどについて説明し、小松館長が資料館を案内しました。



薬学部オープンキャンパス(7/16)

平成29年度の薬学部オープンキャンパス・学内ツアーコースでは、約140名の参加者が、当資料館を見学しました。

参加者は生薬の種類の豊富さに驚いたり、漢方薬の新たな治療効果（がんの緩和療法）に感心したり、また漢方薬が個人の体質や病気の段階によって使い分けられることなどに興味を示していました。

今回の参加が、みなさんの進路選択の手助けとなり、富山大学への入学の意欲をより高められたことを願っています。



富山市民大学 現地学習開催(10/13)

富山市民大学学習センターが主催する富山市民大学「生活医学薬学を学ぶ」コースの現地学習が民族薬物資料館で実施されました。

今年は34名の方が参加され、和漢医薬学総合研究所の民族薬物資料館長兼生薬資源科学分野の小松かつ子教授による展示品の解説や中国の薬草古典について説明がありました。3階会議室では同研究所の生薬資源科学分野の朱株助教が、代表的な漢方方剤の一つである「桂枝湯」に

配合される生薬について実習形式で紹介しました。

受講生は、目の前に並べられた生薬を手に取り、香りや味を確かめていました。また、4種類の桂皮とシナモンについて原料となる植物、薬用部位や産地などの違いについて説明を受けながらどれが一番高品質な桂皮かを推理していました。受講生の大半が熱心にメモを取っていたのが印象的でした。



イベントニュース

第32回 一般公開



11月25日(土)に民族薬物資料館の第32回一般公開を行いました(来館者65名)。

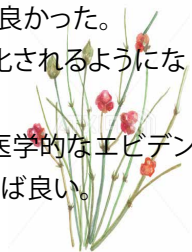
今回は、東京農業大学の御影雅幸教授をお招きし、和漢薬講座『生薬の国産化について』と題して講演いただきました。御影先生の長年の研究テーマである「麻黄」の栽培研究を中心に、生薬の国産化の必要性和その状況についてわかり易く説明され、49名の聴講者の共感をさそっていました。

特別展示では、頻用される漢方方剤の「補中益気湯」、「十全大補湯」、「大建中湯」などの配合生薬を展示し、解説を交えながら紹介しました。



以下、参加者の感想です。

- ・今まで何回も参加したが、その都度、内容が充実して良い。じっくり解説を聞いて、こちらの質問にも気軽に答えていただき、漢方などへの関心がより高まった。
- ・現在の生薬の現状(日本～世界)が知れて良かった。
- ・富山大の特色である和漢薬がもっと一般化されるようになれば良いと思う。
- ・幼少の頃に見聞きした薬もあり、面白い。医学的なエビデンスを明らかにしてもっと使われるようになれば良い。



アクセス

バス

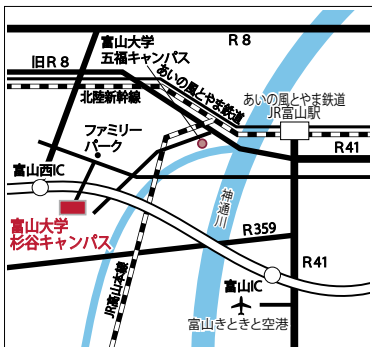
- 富山きときと空港から富山駅まで約20分、富山駅からバスで約30分。

タクシー

- 富山駅から約20分。
- 富山きときと空港から約20分。

自家用車

- 北陸自動車道「富山西 IC」から約4分、「小杉 IC」から約20分。



富山大学 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館

Address 〒930-0194 富山県富山市杉谷2630
E-mail museum@inm.u-toyama.ac.jp
TEL/FAX 076-434-7150
U R L <http://www.inm.u-toyama.ac.jp/mmmw/index-j.html>